

<総括>

出題数	現代文2題・文語文1題	試験時間	100分
-----	-------------	------	------

問題一では、昨年同様、近年出版された文章が出題された。本文は「抵抗」とは何かを論じ、「哲学」もまた「抵抗」であるという内容であったが、エッセイふうの文章で特に読み取りにくいものではなかっただろう。設問の方は30字、40字、50字各1題と、昨年度よりは解答字数が若干増えたが、字数条件が厳しい点は例年どおりである。また問い四も昨年度同様、「文章全体をふまえて」という条件が付されている。これは、広い視野をもって文章を読解することを求める、近年の一橋大学の傾向と言える。

問題三は、例年通りの200字要約問題であったが、昨年度のような、出版年の古い文章ではなく、近年の文章であった。それほど読みづらい文章ではなかったが、同様の内容が微妙に言い換えられ繰り返されているので、それをどう扱うかによって、字数条件の範囲に収めるのが難しくなった人もいたのではないかと考えられる。全体としては昨年度と同程度の難易度と言えるだろう。

<本文分析>

大問番号	問題一	問題三
出典 (作者)	高桑和巳『哲学で抵抗する』「第一章 哲学を定義する」(集英社新書 2022年刊)	嶋田珠巳『英語という選択 アイルランドの今』「第六章 ことばが変わること、替わること/II ことばの変化と人々の気持ち」(岩波書店 2016年)
頻出度合 ・的中等	入試では稀な筆者の文章である。	入試では稀な筆者の文章である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2500字。昨年より約400字減。	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2400字。昨年より約800字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
問題一	哲学論	問い一	記述	標準	漢字の書き取り。 傍線部の内容説明問題。第四段落までの記述の中から、「支配的」の意味と「権力」の内容に該当する要素を見出し、簡潔にまとめる。 傍線部の理由説明問題。抵抗について論じた1ページの最後から6行目以降、傍線部までの内容を勘案し、「抵抗」が「いい」「悪い」に関係しない理由を考える。 傍線部の内容説明問題。「哲学」が「抵抗」の対象とするものを本文全体から考え、傍線部の文脈と最終段落から、「知的な抵抗」としての「哲学」のありようを説明する。 要約問題。アイルランドで起こった「言語交替」という事象を採り上げ、日本でも「バイリンガル化」の動きがあるが、そうしたなかで、日本語がどうなるのかを真剣に考えるべきだとする文章である。①アイルランドの状況、②日本の状況、③「言語交替」後のアイルランドの状況とそれに対する筆者のコメント、という枠組みを押さえて解答を書けばよい。また日本の事情を先に書き、アイルランドと対比させるといいう形でもよいだろう。
		問い二	記述	標準	
		問い三	記述	標準	
		問い四	記述	やや難	
問題三	言語論		記述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題一については、多様な文体の文章・多様なジャンルの文章に取り組み、制限字数内で簡潔に解答をまとめる記述練習を積むこと。漢字や語句の知識の習得も忘らないようにしたい。

問題三については、評論はもちろん、エッセイや古い文体の文章も含め、やはり様々なジャンル・文体の文章を読み、200字の要約練習を行っていくこと。

<総括>

出題数	現代文2題・文語文1題	試験時間	100分
-----	-------------	------	------

昨年度は近世文（江戸時代の古文）が出題されたが、今年度は一昨年度と同様に近代文語文が出題された。設問数は一昨年度と同様に三問であった。一昨年度は、問い一が現代語訳の問題（枝間形式で三題）であったが、今年度は、語の意味の問題（枝間形式で四題）になった。一昨年度は、問い二の理由説明の問題に25字、問い三の理由説明の問題に60字の字数制限が設けられていたが、今年度は問い二の内容説明の問題に30字、問い三の内容説明の問題に60字の字数制限がそれぞれ設けられていた。問い二と問い三の字数制限には、大きな増減はない。

<本文分析>

大問番号	問題二
出典 (作者)	馬場辰猪「平均力の説」
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	1706字。 昨年度は近世文のため、一昨年度の近代文語文と比較して、約600字増加。
難易 前年比較	昨年度は近世文のため、一昨年度の近代文語文と比較して、やや易。

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
問題二	論説	問い一	記述	やや易	語句の意味。四題。アは「性」、ウは「路」、エは「対」の意味に注意する。イ「異日」は習得しておくべき重要語。内容説明。30字以内。第二段落の主旨を正しく捉え、制限字数内で簡潔にまとめる。 内容説明。60字以内。「抑強揚弱の平均力」という主張を踏まえ、特に第五段落と第六段落の内容に注目して簡潔にまとめる。
		問い二	記述	標準	
		問い三	記述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題二は、現古融合文、現漢融合文、近代文語文、近世の古文などから出題される可能性が高いので、古文、漢文の標準的な学習を怠らないこと。
必要な要素を制限字数内に要領よくまとめることが要求されるので、答案作成の練習を怠らないこと。